第3号
2009.6.20
読むと元気になる 活字のビタミン
オレンジ新聞
小山薫堂（責任監修）率いるオレンジ・アンド・パートナーズのゆかいな社員たち

ビタミントピックス

「家族ってなんだろう？」「結婚ってなんだろう？」とお悩みのあなた。家族で仲良くお好み焼き屋「福竹」を営んできた女将がバサバサと悩みを切り落とします。鉄板の上から見た「家族」「結婚」とは。品田がリポートします。

手出し無用の鉄板屋

ジューっと鉄板で音をたてるお好み焼き。いただきまーす、と箸をのばしたその途端。

「さわっちゃだめよ！そこ！」。汗をかきながら、懸命にコテをふる女将さんの目が光る。そう、ここ福竹では、鉄板は女将さんのもの。「ハイ、いいよ」と言われるまでは、触ることも許されません。

「B型でしょ」。突然ぐさり。「観察してれば分かるのよ。ほら、あなたのおしぼり。適当にたたんで」。は、はずかしい…。もじもじしていると女将さんの声が。

「はい、OKベリーグー！ 食べごろよー」。早速、お好み焼きをほおばります。外はカリカリ、中はキャベツの甘さがしっかり出てる。おいしいです。私も女将さんみたいに素敵な奥さんになりたいな、とヨイショしました。

「そういうこと言ってるうちはダメね。結婚する気ないでしょ」と一撃。とほほ。このままずっと一人かもしれない、と悩むこともしばしば。それなりに合コンしたりアンテナを張って頑張ってるんだけどな…。

結婚って何？

「あなた、どんな人がタイプなの？」。顔は沢村一樹みたいでー、頭がよくてー、年収もそこそこな、優しい人かな。「優しさをはき違えてるわ」とバッサリ。軽やかな手つきでピーマンに焼き目をつけながら、早口で結婚講義は続く。

「結婚なんて嫌なことが90%を占めるのよ。お店に来る人を見てると、自分が傷つかないように優しさにふりまわされてる人がほとんど」。なるほどー。結婚って他人同士がずっと生活していくことですもんねえ。

「うちなんてすごかったのよ。喧嘩して、子供が止めに入ったりすることもあって」。ここでお好み焼きが食べられるのは、家族で笑って、ぶつかりあって、泣いて試行錯誤してできた集大成なんですね。おいしい訳だ。私は結婚だけを考えて、その後の家族のことを考えてなかったのかも。耳が痛いなあ…。

厳しさは、思いやり

「耳が痛いなら、大丈夫よ。ほら、できたわよハンペン」。怒られて褒められて、おいしいお好み焼きを食べて、すこし酔っぱらって。もう結婚しなくてもいいかもー、と思ってたその瞬間。

「でも最後は思いやりが大事よ」と女将さん。はたと気づいた。福竹には、思いやりがたくさんつまっているのです。野菜やお肉、小麦粉などの素材、焼き方へのこだわりはすべて思いやりがあってこそ。お客さんをこまめに観察、分析するのも「おいしく食べてもらいたい」という気持ちがあるから。

そして家族仲良くお店を営むのも思いやりがあるから。なんだか大切なことを忘れてたのかもしれませんね。品田美帆、30歳独身。これからちょっと頑張ってみますね、と言ったとたん。女将さんが最後にぴしゃり。

「思いやりって人によっては限りがあるからね。もともと思いやりが大きい人と小さい人がいるから。出し切っちゃだめよ。小出しにしときなさいね」。勉強になるなー。

福竹のおばちゃんこと永本初子さん（左）を中心に絆の強い家族で切り盛りしているところも福竹の魅力のひとつ（アレックス・ムートン撮影）

※オレンジ新聞は、何気ないひと言や日常のちょっとしたことで、ちょっぴり元気になったエピソードをメールで受付中。素敵なエピソードは紙面またはWebでご紹介します。紹介させて頂いた方に小山薫堂著「人を喜ばせるということ」（中公新書ラクレ）をプレゼント！

スキ！だから広告

遠いところにいる友人に連絡をとる時。大切な人に想いを告げる時。どんな方法で気持ちを届けますか。手紙？電話？ メール？

私は、自分の気持ちを伝えるだけでなく、相手の想いもきちんと知りたい時は「Peeler」という名のはがきにつづります。

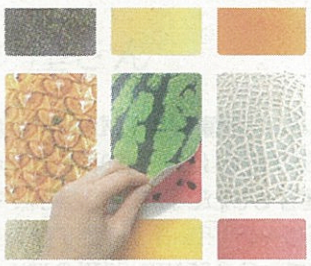
去年暮れ、幼なじみが怪我で入院しました。お見舞いに行くタイミングがなかった私が贈ったのは、メロン、パイナップル、スイカ、グレープフルーツ、オレンジなどフルーツが描かれた、往復はがきの盛り合わせです。

「皮」と「果肉」2枚一組の果物。果実の皮をむいて返事を送れる果物の往復はがき。かわいい優れものです

幼なじみは果物たちを手に取りながら、さっそく電話をくれました。「食べられなくてガッカリなんですけど」。数年ぶりに話したのに、憎まれ口をたたく様子はいつもと変わらず、元気でした。

1週間後、私のもとに5枚の果物が届きました。1枚1枚に分けて、ひと言ずつ。2枚一組の果物が、2人の気持ちを1つにつなげてくれたちょっとしあわせな瞬間でした。ありがとう。

（ふにゃ）



人に伝えたくなる名言

やらずに後悔するより、
やって後悔したほうが
人生は楽しくなる。

熊本・天草の事業家　小山清嗣

野口くん、出番です！

日常をちょっぴり元気にする千円の使い方

北品川の住宅街の路地裏に、ひっそりと身を構える小さな銭湯。お世辞にもオシャレとはいい難い、昔ながらの銭湯だが、いつも湯加減がちょうどよくて、サウナも完備。そしてなにより、晴れているとキレイに星の見える露天風呂があるんです。

僕は友人とお酒を飲んだ後、酔いをさましに時々そこへ行く。何も持たずにぶらりと立ち寄ると、入口の券売機に「サウナ付き手ぶらセット」なるメニューがあり、ちょうど千円。タオルとせっけんとシャンプーが付いて、リンスとひげそりのどちらかを選べる。見上げれば東京の夜空。日々の疲れを手軽に癒やすには最高の場所です。

ある夜、いつものように友人と露天風呂に浸かっていると、肩や頭に、ぴちょんぴちょんと冷たい雨粒が落ちてきた。もちろんその夜、星は見えなかったけれど、お酒とお湯で火照った身体を冷ましてくれて、これが最高に気持ちいい！

すると偶然、同じ湯に浸かっていた近所のおじさんが「何も言えねえ…」。北島康介選手を真似たのであろう一言に、僕らは転げながら大笑いし、大いに共感しました。雨の夜の露天風呂に払った千円が、思わぬ形でそれ以上の価値を返してくれる。日常の中で人が集まる場所には、そんな偶然が潜んでいるのかも知れません。（トモ）

編集後記

梅雨になり湿気が身体にまとわりつき、不快指数の高い日々が続きますね。そんな季節にもちゃんと楽しみを与えてくれているのだから、神様は慈悲深い。街を歩いていると、目に留まる紫陽花の鮮やかなグラデーション。雨上がりの小川で、土の匂いや涼んだ風を感じながら、満天の夜空にも見まがうほどの蛍。いつでも楽しみはそこにあるものですね。（ナツ）

（株）オレンジ・アンド・パートナーズ　編集部
お便り・ご感想もお待ちしております。
ご連絡先　ex@orange-p.co.jp
Webサイト　www.orange-p.co.jp